



2019年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年3月13日

上場会社名 株式会社トーエル 上場取引所 東
 コード番号 3361 URL http://www.toell.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 横田 孝治
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 経理財務本部長 (氏名) 笹山 和則 (TEL) 045-592-7777
 四半期報告書提出予定日 2019年3月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年4月期第3四半期の連結業績(2018年5月1日~2019年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年4月期第3四半期	17,143	3.3	921	△12.6	988	△19.0	620	△10.9
2018年4月期第3四半期	16,601	7.9	1,054	△10.7	1,220	△7.0	696	△15.4

(注) 包括利益 2019年4月期第3四半期 550百万円 (△25.4%) 2018年4月期第3四半期 736百万円 (△13.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2019年4月期第3四半期	円 銭 31.29	円 銭 —
2018年4月期第3四半期	35.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2019年4月期第3四半期	百万円 25,105	百万円 15,103	% 60.1	円 銭 762.64
2018年4月期	24,199	14,946	61.7	750.77

(参考) 自己資本 2019年4月期第3四半期 15,092百万円 2018年4月期 14,936百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2018年4月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 15.00	円 銭 15.00
2019年4月期	—	0.00	—	—	—
2019年4月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年4月期の連結業績予想(2018年5月1日~2019年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,380	4.9	2,050	17.0	2,100	5.3	1,330	13.3	66.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年4月期3Q	20,415,040株	2018年4月期	20,415,040株
② 期末自己株式数	2019年4月期3Q	624,795株	2018年4月期	520,290株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年4月期3Q	19,843,682株	2018年4月期3Q	19,894,750株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、米中貿易摩擦が景気に及ぼす懸念や、中国経済の減速といった海外需要の変動はあるものの、個人需要や企業の設備投資を軸にした内需が底堅さを示し、持続的な成長を維持しました。一方、物流業界では人手不足に端を発した配送料値上げの問題や、それに伴う合理化が課題になっておりますが、当社は物流競争力を成長戦略として中期経営計画に基づく事業基盤の拡大に努めてきました。LPガス、ボトルウォーター共に軒先まで届ける宅配ビジネスであり、創業以来、この配送業務をコストではなく、商品の付加価値を向上させるためのサービス業務として捉え、独自の物流機能を進化させてきました。顧客の購買ニーズが大きく変わる現在、自社配送を強みとする対面チャネルを強化することで顧客サービスの充実に努め、更なる物流競争力を発揮すべく取り組んでまいります。

セグメントごとの経営成績は次の通りです。

① エネルギー事業

最需要期の冬場が暖冬であった影響からLPガスの販売数量は前年同期比3.8%減となりましたが、売上原価の上昇で販売価格の改定を行ったために増収となりました。しかしながらLPガス輸入価格の高値推移による売上原価の上昇と販売価格改定に期ずれが生じた結果、減益となりました。一方、LPガス小売市場においては、廉売による顧客獲得競争に沈静化の兆しは見えませんが、当社はこの過当競争を避けるために、エネルギー事業者として当社独自の価格ポリシーを掲げ、公正な判断に基づく適正価格をホームページ上に公開し、顧客の理解を求めることで、利益の確保に努めてきました。また電力、都市ガスを含めたエネルギー自由化競争に対しては、あらゆる顧客ニーズに応える供給体制を整えるため、既存の「ガス」、「ウォーター」というライフライン領域に「TOELLでんき」「TOELL光LINE」を加え4事業をセットにした「TOELLライフラインパッケージ」を提案することで、既存顧客の取引拡大と新規顧客の開拓に努めました。

また、LPガス事業者にとって中核業務である配送においては、当社独自の物流システムを構築し、コスト競争力を磨いてきましたが、新設の厚木バルク工場が本格的に稼働を開始したことで、ガス配送の合理化に直結する「バルク貯槽供給」で成長を図る体制を確立しました。

この結果、売上高は12,429百万円（前年同四半期比2.2%増）、管理部門経費配賦前のセグメント利益は1,467百万円（前年同四半期比7.0%減）となりました。

② ウォーター事業

日本の飲料水市場は上水道水やペットボトル等が主流ですが、ボトルウォーターはより美味しい水を飲みたいという志向の変化、都市部の高層住宅増加に伴う水の宅配サービス利便性の評価等により、着実に市場は伸びています。こうした市場の成長と共に業界競争は激しくなっていますが、当社は高品質な天然の原水から製造されたウォーターを競争力ある価格で供給することで差別化を図っています。加えて、人手不足による物流コストの上昇が社会問題化する中、自社配送による個別宅配で対面チャネルの強化を図り、コスト削減とサービス向上を進め顧客開拓を進めました。この結果ボトルウォーターの出荷本数は12リットルボトル換算で前年同四半期比3.2%増となりました。

長野県大町工場では、「3,000m級の山々が連なる日本の秘境北アルプスの麓、自然豊かな天然水」から生まれた『アルピナ』、米国ハワイ州Moanalua Factory（モアナルアファクトリー）では、「太平洋の真中ハワイの溶岩でろ過された天然水」から生まれた『Pure Hawaiian』、いずれも天然水を原水とするピュアウォーターですが、これに北アルプスの天然水そのものをお楽しみいただける『信濃湧水』を加え、これら3ブランドを、リターナブル、ワンウェイ2種類のボトルを取り揃えることであらゆる顧客のニーズに対応してきました。

また、ウォーターサーバーの差別化戦略と付加価値向上を目的に開発した「高濃度水素水サーバー」は、水素溶存量最大4.1ppmという業界内で追随を許さない商品であり、美容・健康市場にも販路を開きウォーター事業に貢献しました。

ボトルウォーターの海外輸出戦略に基づき、シンガポール、香港、タイ、ベトナム、台湾への輸出を開始しておりますが、引き続き新たな輸出国及び販路の開拓に努めていきます。ボトルウォーター需要の伸びに備え、一層の安定供給を目的として建設を進めています、アルプスウォーター株式会社の大町第4工場、TOELL U.S.A. CORPORATIONのNimitz Factory（ニミッツファクトリー）の新工場建設計画を既に開示しておりますが、計画

通り建設を進めています。

この結果、売上高は4,714百万円（前年同四半期比6.2%増）、管理部門経費配賦前のセグメント利益は814百万円（前年同四半期比0.6%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は17,143百万円（前年同四半期比3.3%増）、営業利益は921百万円（前年同四半期比12.6%減）、経常利益は988百万円（前年同四半期比19.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は620百万円（前年同四半期比10.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

財政状態につきましては、当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ905百万円増加し、25,105百万円となりました。この主な要因は、建設仮勘定が1,058百万円増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ748百万円増加し、10,001百万円となりました。この主な要因は、長期借入金が増加したこと等によるものであります。

また、自己資本比率は60.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年4月期通期の業績予想につきましては、現時点では、2018年6月13日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、気候変動やC P 価格及び円／ドル為替の動向などの不確定な要素があり、今後業績予想に関しては修正の必要が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,564,892	4,880,217
受取手形及び売掛金	3,019,310	3,108,481
商品及び製品	1,056,614	1,151,824
仕掛品	15,988	11,349
貯蔵品	276,190	292,397
その他	317,576	338,695
貸倒引当金	△112,156	△111,014
流動資産合計	9,138,416	9,671,951
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,573,392	2,541,206
機械装置及び運搬具（純額）	1,778,616	1,571,523
土地	5,466,938	5,497,483
リース資産（純額）	2,239,168	1,971,652
その他（純額）	744,901	1,860,145
有形固定資産合計	12,803,017	13,442,011
無形固定資産		
営業権	432,271	294,336
その他	138,015	129,232
無形固定資産合計	570,286	423,568
投資その他の資産		
その他	1,830,605	1,714,191
貸倒引当金	△142,845	△146,698
投資その他の資産合計	1,687,759	1,567,493
固定資産合計	15,061,063	15,433,073
資産合計	24,199,480	25,105,024

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,630,776	1,869,652
短期借入金	600,000	1,220,000
1年内返済予定の長期借入金	304,711	367,025
未払法人税等	396,723	16,348
賞与引当金	175,050	91,990
役員賞与引当金	60,000	45,000
その他	2,530,509	2,406,818
流動負債合計	5,697,770	6,016,834
固定負債		
長期借入金	343,009	1,021,236
役員退職慰労引当金	825,721	873,551
退職給付に係る負債	578,862	609,882
その他	1,807,929	1,480,347
固定負債合計	3,555,522	3,985,016
負債合計	9,253,292	10,001,850
純資産の部		
株主資本		
資本金	767,152	767,152
資本剰余金	1,488,650	1,492,427
利益剰余金	12,738,195	13,060,609
自己株式	△447,910	△546,341
株主資本合計	14,546,087	14,773,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	328,512	266,505
為替換算調整勘定	60,706	51,706
退職給付に係る調整累計額	1,089	704
その他の包括利益累計額合計	390,308	318,915
非支配株主持分	9,792	10,410
純資産合計	14,946,187	15,103,173
負債純資産合計	24,199,480	25,105,024

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2018年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)
売上高	16,601,502	17,143,683
売上原価	9,314,484	9,797,212
売上総利益	7,287,017	7,346,471
販売費及び一般管理費	6,232,790	6,424,979
営業利益	1,054,227	921,491
営業外収益		
受取利息	1,171	991
受取配当金	11,854	12,232
賃貸収入	21,890	21,366
スクラップ売却収入	48,216	57,045
その他	174,940	63,810
営業外収益合計	258,073	155,445
営業外費用		
支払利息	53,125	44,809
賃貸費用	17,902	17,658
為替差損	11,416	18,243
その他	9,744	7,691
営業外費用合計	92,188	88,403
経常利益	1,220,112	988,533
特別利益		
固定資産売却益	2,426	5,367
特別利益合計	2,426	5,367
特別損失		
固定資産除却損	2,015	5,065
固定資産売却損	51,161	—
特別損失合計	53,177	5,065
税金等調整前四半期純利益	1,169,361	988,835
法人税、住民税及び事業税	446,176	311,039
法人税等調整額	25,806	56,251
法人税等合計	471,982	367,290
四半期純利益	697,378	621,544
非支配株主に帰属する四半期純利益	435	709
親会社株主に帰属する四半期純利益	696,943	620,835

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2018年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)
四半期純利益	697,378	621,544
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	61,237	△62,006
為替換算調整勘定	△20,510	△9,000
退職給付に係る調整額	△1,109	△385
その他の包括利益合計	39,617	△71,392
四半期包括利益	736,995	550,152
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	736,768	549,534
非支配株主に係る四半期包括利益	227	618

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年5月1日 至 2018年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	エネルギー 事業	ウォーター 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,160,920	4,440,582	16,601,502	—	16,601,502
セグメント間の内部売上高 又は振替高	59,750	—	59,750	(59,750)	—
計	12,220,670	4,440,582	16,661,252	(59,750)	16,601,502
セグメント利益	1,578,118	809,653	2,387,772	(1,333,544)	1,054,227

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,333,544千円には、セグメント間取引消去△59,750千円と全社費用△1,273,794千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	エネルギー 事業	ウォーター 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,429,280	4,714,403	17,143,683	—	17,143,683
セグメント間の内部売上高 又は振替高	72,233	—	72,233	(72,233)	—
計	12,501,514	4,714,403	17,215,917	(72,233)	17,143,683
セグメント利益	1,467,429	814,673	2,282,102	(1,360,611)	921,491

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,360,611千円には、セグメント間取引消去△72,233千円と全社費用△1,288,377千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。